

令和元年度 第2回秩父市総合教育会議 次第

令和元年11月22日(金) 15時40分

本庁舎3階 庁議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 放課後児童対策について(報告)

(2) 学力テストの結果について

4 その他

5 閉 会

放課後児童対策について(報告)

1 学童保育室とふれあい学校「合同保育」の概要

市内の小学校 5 校(秩父第一小、南小、尾田蒔小、高篠小、大田小)をモデル校として選定し、順次一体化に向け合同保育を試みている。

7 月 10 日より随時、学年は主に低学年、時間は 14:40~16:00 まで活動内容等は、学習活動(宿題、授業の復習、硬筆練習など)や、遊び(外遊び・室内遊び)など

また、夏休みについては、平日の活動内容の他に、昼食や昼寝などにチャレンジした学校もあった。

2 成果、課題等

○成果

・学童保育室(以下学童という)の「上級生が下級生の面倒を見るという雰囲気」がふれあい学校(以下ふれあいという)に良い影響を与えた。

・より多くの同学年の友達又は、学年を超えた多くの友達と遊べた。

・学童、ふれあいともにはない部分(勉強の教え方、異学年との交流の仕方など)を補うことができ、お互いを高めることができた。

○課題

・両施設の職員間の情報共有が不足している。

・教室が離れているために移動するのが大変である(ふれあい→学童)

・おやつは、おやつ代の集金やアレルギーの問題等で保護者等の打ち合わせが必要

3 2 学期以降の試み

①9 月 12 日に学童・ふれあいの合同保育推進会議が開催された。そこで、今までの反省、今後の取組について協議され、特に冬休み中の「共通のおやつ」を行うことで決定

②10 月、11 月、12 月と合同保育を行う曜日を増やしていく取り組みを推進する。

4 次年度の実施校(予定)

次年度(令和 2 年度)には、新たに 3 校(花の木小、吉田小、荒川東小)と、学童保育室を再開する久那小でふれあい学校との合同保育を実施する予定

平成31（令和元）年度 全国学力・学習状況調査結果（概要）10月21日

	小学校 31（令和元）年度（AB統合問題）			小学校 30年度（B問題）		
	秩父市	埼玉県	全国	秩父市	埼玉県	全国
国語	66	64	63.8	53	54	54.7
	9/13 校	2	2.2	7/13 校	-1	-1.7
算数	63	66	66.6	46	50	51.5
	5/13 校	-3	-3.6	6/13 校	-4	-5.5

	中学校 31（令和元）年度（AB統合問題）			中学校 30年度（B問題）		
	秩父市	埼玉県	全国	秩父市	埼玉県	全国
国語	70	73	72.8	58	61	61.2
	2/8 校	-3.0	-2.8	3/8 校	-3.0	-3.2
数学	55	59	59.8	42	47	46.9
	2/8 校	-4.0	-4.8	1/8 校	-5.0	-4.9
英語	52	56	56.0			
	1/8 校	-4.0	-4.0			
英語 （話すこと）	36		30.8	秩父市の平均正答率	県の平均正答率	全国の平均正答率
	6/8 校		5.2	県平均以上の学校数	県平均との差	全国平均との差

○全体的傾向

- ・ 小学校国語が全国、県平均を上回った。中学校英語「話すこと」も全国平均を上回った。それ以外の教科については、小中ともに全国、県平均との差を縮めてきている。

○小学校

- ・ 県平均以上の学校数が増加、課題があった学校の正答率が上がり、学校間の格差がさらに縮まってきている。
- ・ 国語は、全国、県の平均を2ポイント以上、上回り、算数は全国、県の平均との差を縮めている。

○中学校

- ・ 国語、数学は、全国平均との差を縮めている。
- ・ 英語は、「話すこと」調査においては、半数以上の学校が全国平均を上回り、秩父市の平均正答率も全国平均を上回った。

○伸びた主な要因

- ・ 教育長が校長会議において指導したり、指導主事が年間約80回学校に訪問して指導したりしてきたこと。
- ・ 各学校において、全国学調の問題を分析した上で、過去問に取り組みせたり、補習を行ったり、チテブチャレンジを活用した授業改善を図ったりするなど、様々な取組を行ったこと。
- ・ 小・中学校の教員を対象とした外国語の研修、外国語コーディネーター・ALTの配置による外国語の授業の充実とともに、外国語を話す機会が増加していること。 など

◎課題の改善に向けて

- ・ 各学校で明らかになった課題改善の取組について、校長会議で校長から発表させた。
- ・ 国語、算数・数学、外国語の部会で課題を抽出し、具体的な授業改善の方策を提案した。
- ・ 中上位層をさらに伸ばすため、タブレットのドリルソフトのさらなる活用を促した。